



陶芸体験をしました。(3年生)

9月26日(木)、5,6限目に3年生は陶芸体験(萬古焼の作品づくり)をしました。「四日市萬古焼 酔月陶苑」さんから2名の指導者の方に来ていただき、子どもたちのランプシェード(ランプや電灯の笠)の制作指導にあたっていただきました。子どもたちは、円筒の形をした粘土を、星形やハート形、花びらの形等をしたクッキーの型等を使ってくり抜き、好きなようにデザインして思い思いの作品を作りました。作業が終わると「四日市萬古焼 酔月陶苑」さんの指導者の方に、できた作品を持って帰っていただきました。この後、粘土をかまどで焼いて萬古焼の作品に仕上げさせていただきます。2学期末か3学期始めには、焼きあがった作品を子どもたちのもとに届けていただけるそうです。

萬古焼は、かまどで焼くとつやが出て、きれいな作品になります。身近な形で四日市の伝統工芸品である萬古焼の魅力にふれることができ、いい経験ができたことと思います。今からできあがりを楽しみます。



ポップコーンづくりをしました。(2年生)

9月25日(水)1,2限目に、家庭科室を使ってポップコーンづくりをしました。学級菜園で育てたポップコーン用のトウモロコシを、油をひいた鍋に入れ、ガスコンロで弱火にしていきました。鍋が熱くなってくると「ポン、ポン」と音がしてトウモロコシがはじけます。子どもたちは興味深くながめていました。

だいたいのおもろこしがはじけ、白色のポップコーンとなったところで、鍋を机に移し、おたまで紙のお皿へと取り分けました。塩、カレー、チョコレート、キャラメル、バターしょう油など、お好みの味にしてみんなでおいしくいただきました。「映画館にあるのと同じだ」と言っている子もいました。みんなの笑顔がポップコーンのようにはじけていました。



「もみすり」を行いました。(5年生)

9月30日(月)3,4限目に5年生が「もみすり」を行いました。管理棟3階の廊下に1週間ほど乾かしていたもみを紙袋に入れ、班員で分担し、地域学習活動指導員さんのお宅まで運びました。指導員さんには、備え付けのもみすり機で玄米にいただきました。子どもたちは機械のそばを何度も通らせてもらい、どのように玄米になっていくのかを観察させていただきました。

紙袋に入れて運んだもみは、最終的に約8.7kgの玄米になりました。玄米は、まだ小さい粒のものや黒くなっているものも混ざっていたため、さらにきれいな米だけにするために、再度機械にかけて分別していただきました。分別してできた玄米は、粒が大きいものばかりで、真っ白な色をしていました。

春の田植えから始まり、稲刈り、もみすり、3回の体験学習を通し、農家の方が大変な苦勞をして米を育てていることを、子どもたちは身をもって感じることができました。お世話になり、本当にありがとうございました。



「第3回きらら推進委員会(CS運営協議会)」が開催されました。

9月27日(金)夜、「第3回きらら推進委員会(CS運営協議会)」が開催されました。校長からは、最近の子どもたちの様子や地域学習指導員等と子どもたちとの関わりの様子等について、写真や動画を使って紹介しました。意見交流では、「集団登校で学校へとやってくるのが遅い地区がある」「地域の方々と子どもたちが関わることで、子どもたちの変容がある」といった意見が出されました。小規模特認校制度の適用に関しては「他の学校の子と早くから交流ができるのは刺激があつていい」「小学校は地域の中心となる拠点であり、学校を存続させるためにも小規模特認校制度をいい形で進めていかなければならない」「来入児童については授業体験がなく、運動会や授業参観+文化祭への招待をすることで、学校のことを知ってもらう機会になるのではないか」といった意見も出されました。



きらら推進委員会に先立ち、「第2回水沢小学校の未来を考える会」が開催されました。(文責 北住 昌文)